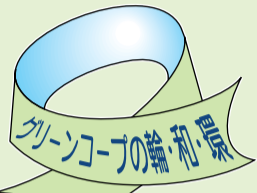




# 共生の時代

'09  
5月

●発行:グリーンコープ共同理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8番36号博多ビル7階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



**プロフィール**  
健太郎さん 大阪府出身。1966年生まれ。福岡の大学卒業後就職・結婚。麻由子さん 佐賀県鹿島市出身。1971年生まれ。福岡の大学卒業後就職・結婚。子どもは長女(小2)と二女(年長児)の2人。グリーンコープ20周年記念企画に出演した

## 音楽は生きとし生けるものからのメッセージ

ギター&オカリナ「Shana」 原 健太郎・麻由子さん  
ホームページ:<http://www.shana-hana.jp>

**結** 婚後間もない頃だった。麻由子さんは初めて訪れた雑貨店でオーナーに声をかけられ、いきなりオカリナを吹くことになってしまった。当時、健太郎さんはエスニックレストランのシェフ。趣味で弾いていたギターで麻由子さんの伴奏を偶然引き受けることになった。初めてのステージでびったりと合う2人の呼吸。学園祭のノリで演奏した。それがギター&オカリナのデュオグループ「Shana」結成のいきさつだ。

その後は健太郎さんの仕事の合間をぬって、コンサート活動を続けてきた。

2001年6月、長女誕生を機に、2人は一切を引き払って福岡から佐賀の山村へ移り住む。麻由子さんの「もつと心地よい暮らしがあるならそれを選択するのは当然」というのが理由だった。そうは

言っても毎月の収入は絶たれる。健太郎さんは悩んだ。だが最終的に妻の選択を信じた。「うちは『切り開く麻由子』、手作業の健太郎」なんです。揺るがない信頼関係をベースに再スタートを切った。

現在住む脊振山麓の20数軒ほどの集落に落ち着いた時、健太郎さんは家の改装の図面を引き、大工仕事、畑仕事などの「手作業」を引き受けた。楽しくてたまらなかった。集落に幼い子どもがいるのは原さん宅だけで、みんな親切だった。朝起きると玄関先に野菜が積まれていることもしばしばだった。

山家暮らしは生活を一変させた。水は井戸水。街灯もなく、夜ともなれば照らすのは月明りのみ。ごく自然に生物としてのリズムで暮らすようになる。「音」は豊かにあつた。小鳥たちのさえずり、裏の谷川の瀬音、軒下のウインドチャイム、「静寂」さえも

音楽とは言葉そのもの。素朴な楽器に深い精神性という息を吹き込めば、楽器は生命あるもののように鳴る。

## 第4回GMOフリーゾーン全国交流集会in綾町が宮崎県綾町で開催!!



綾菜会の圃場で生産者の話を熱心に聞く参加者

45面に関連記事

## Contents

地域福祉を考えるシンポジウム	
～これからの地域における新たな支えあいとして～	2
うちのメーカー・うちの生産者④	
橋本製菓(株) ミニボーロ	3
第4回GMOフリーゾーン全国交流集会 in 綾町	
遺伝子組み換え作物・食品のない世界をめざして…	4・5
～グリーンコープは日本の漁業を応援します～	
高校生が獲ったマグロが今年も届いた!!	6
2008年度 第3回酪農生産者交流会	
酪農の希望につながる生産奨励金	7

春になると咲く菜の花。以前は、菜の花を見かける頃になると春の訪れを感じていた。最近、菜の花を見ると調査の時期が来たなと思うようになった。自生GMナタネ調査活動。グリーンコープで調査活動をはじめた時からずっと「ナタネ」を見てきたからだろう。食べものや環境に不安を持ちながら暮らすようになったのは、いつからだろう。子どもの頃は、そんなことを考えたこともなかった。

## 送 信

今では私の影響か、中学一年になる息子の方が関心を持ち、一緒に語るようになった。

3月に、「GMOフリーゾーン全国交流集会」が宮崎県綾町で開催された。生産者と消費者が一緒になり、「遺伝子組み換えNO!」を確認することができた。子どもたちのためにも、暮らしに不安のない世界をつくらせていきたい。

グリーンコープ生協みやざき理事長  
杉尾 紀美子



# ～これからの地域における新たな支えあいとして～



## 地域福祉を考える シンポジウム

主催 社会福祉法人グリーンコープ  
共催 NPO法人北九州ホームレス支援機構  
グリーンコープ共同体  
21世紀型地域福祉システム研究会  
後援 福岡県・福岡市

2009年3月20日  
福岡市

市民（地域住民）・行政が一体となって作り出す「地域の支えあい」をテーマにシンポジウムが福岡市で開催されました。

会場には、グリーンコープの各単協やワーカーズ、行政、地域でのたすけあいを実践しているNPOをはじめ各種団体など約300人が集いました。

### プログラム

- 講演1「北九州におけるホームレス自立支援の取り組み」と「抱樸館福岡」**  
NPO法人北九州ホームレス支援機構理事長 奥田 知志さん  
社会福祉法人グリーンコープ副理事長
- ホームレス支援団体からの報告**  
美野島めぐみの家 瀬戸 紀子さん
- 講演2 これからの地域福祉のあり方について**  
厚生労働省社会・援護局地域福祉課長補佐 千田 透さん
- パネルディスカッション**  
テーマ:地域における「新たな支えあい」を求めて  
千田 透さん(コーディネーター)  
吉田 直美さん(盛岡市消費生活センター)  
行岡みち子さん(グリーンコープ生活再生相談室室長)  
大川 絹代さん(社会福祉士)  
外井 京子さん(福岡市議会議員)  
平田 広志さん(弁護士・平和の森法律事務所)
- まとめ**  
社会福祉法人グリーンコープ理事長 行岡 良治さん



千田 透さん

講演

## 地域のは、社会を変える

### 増える貧困層

1990年代から経済はグローバル化し、能力主義や自己責任という風潮が急速に広がった。企業は業績の改善のために、人件費を大幅に削減し大きな利益を出している。加えて、高所得者の税率は70%から現在では40%になり、富裕層の資産増加に拍車をかけている。一方、年収200万円以下の給与所得労働者は全給与所得労働者の22%（2006年度）、非正規雇用労働者は、1995年には全労働者の20%だったが、2005年には33%

### 弱者へのしわ寄せ

このような社会状況の中で、貧しさと孤立が重なる弱立場の人々に大きな影響が出るのは必至だ。単身者の孤立死や孤立している家族の高齢者や児童への虐待、生活苦からの多重債務、多重債務からホームレスにというケースが多い。こうした問題の解決のためには、公的サービスの充実が当然だが、それだけでは対応しきれないのが現状だ。かつて

### 共同の力を生かして

協同組合の設立の精神は、たすけあいだ。「二人は万人のために」、万人は一人のために」をモットーとしている。生協法の改正も行われ、福祉活動を助成する事業も行えるようになった。日常的に強いネットワークを持ち、共同が実践されている

### 福祉による地域再生の担い手として

現在、福岡県の生活保護の給付率は非常に高く、地域によっては3世代4世代に渡って生活保護を受けているところもある。ホームレスの数も、福岡県は全国で5番目に多い。中でも福岡市での増加率は全国一だ。行政の責任は大きい、行政だけでは解決できないのが現状だ。こうした中でグリーンコープの地域福祉の取り組みに期待している。

### 大川絹代さん

ホームレスの自立のためには、住居や生活費の提供だけでは不十分。行政の委託を受け、ホームレスの相

## グリーンコープは人と人が「たすけあい・支えあう」地域創りをはじめます

経済不況がジワジワと市民生活の中に忍び寄せると同時に、派遣切りや雇用不安が社会を襲っています。職場を追われ、家をも失い、路頭に迷う人たちが増えています。

現在、福岡市には1000人を超えるホームレス者がいると推察されています。北九州市ではNPO法人北九州ホームレス支援機構の支援活動で、減少していた路上生活者が再び増加傾向にあるとされています。今や誰もがいつでも「失業」「貧困」「多重債務」そして「ホームレス」という問題に直面する可能性があります。

グリーンコープはこのような状況を何とか解決できないかと考え、生活困窮者の自立のための「家づくり」をはじめめることにしました。そのキーワードは「たすけあい」。人と人がたすけあいながら共に生きていける、そんな温かい地域の中でこそ、厳しい時代を生き抜く力を育むことができると考えました。

NPO法人北九州ホームレス支援機構と共同でホームレス自立支援に向けた取り組みをすすめ、「抱樸館福岡」を運用していくこととなります。そのための資金として近い将来、組合員カンパを募ることにします。また、厳しい時代を共にたすけあって生きていくための組織として「抱樸館を支える会（仮称）」を発足させることにします。

みんなの力を寄せあって、「たすけあう」社会を創り出していきましょう。

### パネルディスカッション

#### 地域における「新たな支えあい」を求めて

##### 吉田直美さん

盛岡市は20年以上前から多重債務問題に取り組んでいる。単に相談を受けるというのではなく、相談者に寄り添う福祉実践し、行政が市民のためのセイフティネットとして機能している。

##### 行岡みち子さん

ふくおかの生活再生相談室では、債務を整理しても生活費の困窮から、また借金しなければならぬ人が5割いる。グリーンコープでは、そうした相談者も安定して暮らせるように、生活費の貸付や家計管理を支援している。

##### 大川絹代さん

ホームレスの自立のためには、住居や生活費の提供だけでは不十分。行政の委託を受け、ホームレスの相

##### 平田広志さん

生活保護の受給権侵害問題や多重債務の問題にも弁護士会は取り組むようになった。市民がこのような問題を抱えないためには、行政の役割をもっと積極的に果たすべきだ。

##### 外井京子さん

子育てで応援特別手当は、一部の人の助成にしかならず、生活の困窮から学費を払えない世帯も多く、地方にはもっと切迫している問題もある。代理人運動をおして、地域のきめ細かい問題に取り組んでいる。

##### 千田透さん

多重債務処理においては、借金の整理にも手数料が取られ、貧困産業とも思える。今回の報告のような地域での真摯で地道な取り組みが、地域行政を動かす国を動かすパワーになる。

### まとめ

#### 「共助」と「公助」が豊かに連携し、地域を再生する

##### 行岡良治さん

ホームレスの問題や多重債務者の問題など、国や行政の責任は本当に大きい。これまで市民社会の中で「自助」や「共助」をないがしろにする傾向にあった自分たちの問題もある。互いにたすけあうことをとおして、安心して暮らせる地域を再生することが大切だ。千田さんの話にもあるように、福岡市のホームレスの状況は深刻だ。グリーンコープではホームレスの自立支援のために「抱樸館福岡」を開設する準備をすすめている。建設予定地の地域住民の了解をいただく必要があるが、準備をすすめている。人と人がたすけあうて生きていく「共助」と公の取り組みがタイアップし、人々が暮らしやすい時代をつくっていききたい。



# 大切な人に食べさせたいお菓子を作ろう!



## ミニボーロ

### うちのメーカー

84

福岡市  
橋本製菓(株)



### うちの生産者

福岡市南区にある小高い丘の上の菓子生産団地。そこに、**ミニボーロ**を作るメーカー橋本製菓(株)がある。事務所兼工場では常時10人ほどの従業員が働いている。製造工程を見学し、代表取締役の橋本寛さん、専務取締役の橋本大道さんに話を聞いた。

### 橋

本製菓は50年以上ボーロだけを作り続けてきたメーカーだ。

橋本製菓のボーロは、厳選されたばれいしょでん粉や上白糖、水あめ、そして前日に納入された新鮮な卵を原料に徹底した衛生管理、

いいねいで厳しいチェックによって作られている。出来上がったボーロは少々硬めだが口溶けがよく、ほどよい甘さとマッチしていて子どもはもちろん大人が食べてもおいしくて止まらなくなってしまう程だ。そんなこだわりのあるボーロが生み出される工場の



社長の橋本寛さん(左) 専務取締役橋本大道さん(右)

壁には「大切な人に食べさせたいお菓子を作ろう」という言葉が掲げられている。その社には橋本製菓の理念が感じられる。

### 変化する時代の中で



北海道札幌市で創業者橋本金蔵がボーロを製造したのがはじまりだ。しかし、ボーロ製造を事業化するまでの道のは、決して順風満帆ではなかった。

ある事業に失敗し一家で上京。東京の菓子工場で働きたことにより働く場所を失くした。当時東京で大流行していたあんぱんを北海道でもヒットさせようと一念発起。ふるさとに戻るがまったくヒットせず空振り。そんな苦い経験を経てたどり着いたのがボーロだった。北海道と名古屋に兄弟会社があった。2代目となった橋本さんは親戚や競争相手のいない新天地を求め、九州に渡った。50年以上前のことだ。「今でもはつきり覚えているのは、北海道から福岡に来た時に感じた、九州の暖かさや人の温かさです」。橋本さんは懐かしそうに振り返る。当時は高度経済成長期。公害が社会問題化され、安全な食べものが手に入りにくい時代だった。そんな社会状況に危機感を抱いた橋本さんは、福岡市内で活動していた「食品公害からのちを守る会」に入会。集会に参加し、食の安全を訴え、街へも飛び出した。その中で当時まだ珍しかった無農薬野菜の生産者や食の安全性にこだわるグリーンコープの前身生協と出会った。自然食品や無農薬栽培の野菜が販売されるイベント会場でボーロも並べた。「自分にはボーロしかなかったんです。とにかく、もっともいいボーロを作りたいという気持ちでした」。

### 素材にこだわる



ボーロはとてもデリケートな菓子だ。素材が少し変わっただけでも、すべての配合を変えなければならぬ。配合の微妙な違いで、味も出来上がりも変わってしまう。また、でん粉と卵の生地は粘りが少なく、ほろほろとしてまとまりにくい。小麦粉を多く入れれば延ばしやすくなるが、それはボーロではない。独特のもろさこそがボーロなのだ。

グリーンコープのボーロには、**産直たまご**が使われ、膨張剤など余分なものは一切使われていない。市販品の多くに配合されているオリゴ糖入りのボーロも試作したが、グリーンコープでは取り扱わなかった。余分なものは一切使わないというグリーンコープのこだわりを尊重した。**ミニボーロ**開発時、何度も作り直し、食べ比べ、そして、納得した味にたどり着いた。その味が今だに大切に守られている。

### 受け継がれる 静かな情熱



専務取締役の大道さんは、そんな父親の背中を見ながらお菓子作りへの志を持ち続け、自社に就職した。「営業にも積極的に回りました。グリーンコープでは、私たちの作ったものをどんな人たちが食べているのか、今何が求められているのかを直接聞くことができます。私のやりがいにつながっています」。時代とともに変化する組合員の望みにも意欲的だ。

食品偽装や産地偽装、「売ればいい」という風潮の中、「昔ながらのお菓子」はどんどん消えていく。ボーロは決して今どきの売れ筋商品ではないが、地道な需要があり、海外からも注文がある。「他の菓子を作ろうとしたこともありましたが、ボーロ一筋でやってきて、結果的にはよかったです」。橋本さんはしみじみ、そう語る。

**ミニボーロ**は、今年に入って、包材がリニューアルされたばかり。安全へのこだわりをやさしい甘さと丸い形に込めて、まじめにいいねいに作られている。

### ミニボーロができるまで

#### 主な原材料

ばれいしょでん粉・液卵(産直卵)・上白糖・水あめ



卵・上白糖・水あめをミキシングする

ばれいしょでん粉・小麦粉を投入し、生地を作る



220℃のオーブンで約10分焼く

焼き上がり

目視にて検査する



袋詰め

### できあがり





# 生物・食品のない ぼして...

綾町



照葉大吊橋

日本で遺伝子組み換え(GM)作物や食品が社会的な問題となって10余年、グリーンコープは生物の遺伝子を操作するという生命を冒すことに反対の姿勢を貫いてきました。しかし、バイオテクノロジーという名の下にGM技術推進はとどまるどころを知らません。それに対抗して、市民団体や生協はさまざまな取り組みを展開してきました。個々のGM作物の研究開発・商品化への反対運動と同時に、GM作物を作らない地域を広げるGMフリーゾーン運動にも積極的に取り組んでいます。GMフリーゾーンは世界的な反GM運動の一つとして各国の自治体の中で広がりを見せています。

日本では2005年滋賀県高島町での集会を皮切りに、今年全国交流集会在初めて九州の地・宮崎県綾町で開催され、約500人が参加しました。今回の集会はグリーンコープ南九州(グリーンコープかごしま生協・グリーンコープ生協みやざき)が主体となって実施しました。両生協を中心にグリーンコープ共同体が連携して準備をすすめ、有機農業の町・綾町から全国に向けてGMフリーゾーン宣言を発信しました。

全国交流集会のように報告します。

## 広げようGMフリーゾーン

### GM作物・食品をめぐる最近の動き

天笠 啓祐さん

GM食品についてオーストラリアやイタリヤの最近の研究では、モンサント社のGMトウモロコシの動物実験でマウスに異常がでていることが報告されている。北海道のGM作物の栽培実験では、花粉の飛散による交雑は防ぐことができず、生態系への影響は深刻であるとされている。4年間行ったGMナタネ自生調査結果でも、こぼれ落ちた種子による環境汚染を防止することはできないことが明らかだ。

一方、除草剤耐性GM作物の畑ではラウンドアップ耐性のスーパー雑草が生え、それを除草するためにさらに農薬の使用量が増え、かえってコストがアップするなど、新たな問題となっている。また、モンサント社などのバイオテクノロジー企業による種子会社の買収がすすんでいる。韓国の主要6社が買収されて、

日本もターゲットになる可能性がある。GMの恐怖が身近になっており、それを止めるためにもGMフリーゾーンの拡大が是非必要である。

海外のGM作物(食品)をめぐる動き

イタリヤからはじまったGMフリーゾーン運動は、ギリシャやポーランドなどで全地方政府がフリーゾーンを宣言するなど広がりをみせている。スイスは2013年までにGM作物・食品を禁止することを決定した。アメリカのカリフォルニア州やカナダなどでもGMフリーゾーンが広がっている。

日本におけるGM作物栽培と規制の動き

日本では愛知県のGMイネ「祭り晴」や島根県のGMメロンが開発中止、岩手県や北海道もGMイネの研究・開発から撤退した。しかし、一旦中止された花粉症緩和米の研究を予算化するなど、農水省だけが推進の姿勢を崩さない。

一方、日本のGMフリーゾーン運動は広がっている。2005年に滋賀県高島町で第1回の全国交流集会が開催されたのをきっかけに、地域や個々の農家・団体・市民が宣言をはじめた。それは、北海道から山形県、首都圏などに拡大し、現在九州にも広がっている。

また、2002年山形県藤島町で、まちづくり条例にGM作物交雑混入防止項を設けたことがきっかけとなり、北海道や新潟県ではGM作物栽培が開始されるという情報もある。

アフリカでは南アフリカ共和国だけがGM作物を商業栽培していたが、アメリカの企業の猛烈な売り込みで、エジプトをはじめ、多数の国が栽培に踏み出そうとしている。

北海道や新潟県ではGM作物栽培規制条例が制定された。また、北海道の3年間に及ぶ交雑試験は、農水省の規制基準より栽培隔離条件を厳しくして実施された。結果、隔離距離や花粉飛散防止ネットでは交雑を防ぎきれないことが報告されている。

「雑草を守る法律？」  
カルタヘナ議定書国内法の限界

GM作物に関する法的規制の効力を持っているのがカルタヘナ議定書である。

1992年地球環境サミットで採択された生物多様性条約はすべての自然を守るという画期的な条約であり、これを基に2000年、カルタヘナ議定書が採択された。この条約を批准しているのは148の国と地域。その中にアメリカはない。アメリカは自然環境保護よりも知的所有権保護を重視し、市場独占を狙った特許戦略を推進している。しかし、GM作物の最も大きな輸出国であるアメリカが参加しない状況では、GM作物を規制する国際的な効力は期待できない。

自治体の特性を生かした取り組み

GM汚染から地域の農業、食を守っていくためには、国よりは県、県よりは市町村など、できるだけ小さな単位でその地域に合った方法で地方自治の精神が生かされること

が大切である。そうすることで小規模の農業や在来の種子を守り、地域の生物の多様性を大事にし、食文化や食料主権を守っていくことができる。GM作物栽培による他の作物への交雑・混入防止は極めて難しく、栽培そのものをやめるしかない。同時に、GM作物・食品の問題点をきちんととらえ、栽培について責任を明確化し、環境汚染について種子企業の責任や経済的な損失の補償について追及するなど、有効な国内の規制を確立していく必要がある。

### グリーンコープ南九州地方

開会の挨拶



実行委員長(綾菜会会長) 小田 道夫さん

今回、綾町で第4回GMフリーゾーン全国交流集会が開催できたことを綾町の生産者としてたいへん誇らしく思っています。綾町は1988年に自然生態系農業条例を制定した有機農業の町として、安全でおいしい野菜作りをすすめています。全国各地からたくさんの方が参加され、光栄です。どうぞゆつくり綾町を楽しんでください。



みやざき理事長 杉尾 紀美子さん

グリーンコープでは組合員個人が参加する「お家の庭から遺伝子組み換え作物作らない宣言」にも取り組んでいる。こうやってGMフリーゾーン運動を広めることで、ストップ!GMを意識できればと思う。

### 大地を守る会

こととG  
る。自給  
畜肉の飼  
食べてい  
ために国  
げたい。

### 生協連合会きらり



理事 西村 和世さん

日本では、2004年2月19日にカルタヘナ国内法を施行した。しかし、日本の国内法は「生物多様性」を狭い解釈にとどめ、農作物や鳥などの野生動物を対象から排除している。そのためGM作物を



# 遺伝子組み換え作物 世界をめ



綾町のみなさんによるよさこいソーラン節

## オプションツアーin綾報告

3月14日、会場に溢れる程の参加者で盛り上がった第4回 GMOフリーゾーン全国交流集会は成功裏に終わることができました。翌15日は「1日コース」と「半日コース」に分かれてのオプションツアー。綾町の農業や畜産関係施設などの見学や綾町の豊かな自然やその自然と融和した歴史や文化を体感する企画です。

両コース共通の企画として、グリーンコープの豚肉生産者の綾豚会からは「安心・安全」な飼料の説明を、青果生産者の綾菜会からは産直野菜の試食と説明を、綾町独自の有機JAS登録認定機関である有機農業開発センターでのレクチャーをそれぞれに受け、参加者は綾町の農業への姿勢を確認しました。また、綾町で収穫される新鮮な野菜や手作り食品などを扱う「綾手づくりほんものセンター」では買い物を楽しみました。1日コースはこの他に、照葉大吊橋をはじめ綾城散策など綾町の自然や文化に触れ、有意義な時間を過ごしました。

有機農業開発センターの敷地内にある、「綾町・JA綾町・綾菜会・綾照葉会」合同のGMOフリーゾーン宣言の看板



綾豚会事務所にある飼料タンクの前で。グリーンコープの産直豚肉飼料の「安心・安全」をアピールする看板の下方に綾豚会による「GMOフリーゾーン宣言」の看板が掲げられている



綾菜会の野菜(人参・大根・レタス)を試食。「人参は柿で、大根は梨のようにおいしい」と試食した一人の参加者の比喩に他の参加者も大いに納得! 野菜本来の味を思いっきり味わった

有機農業開発センターで綾町の自然生態系農業の概要や有機認証の基準のしくみなどを映像でいねいに説明を受けた。参加者は綾町の農業について理解を深めた

## 自然生態系農業の里・宮崎県綾町を肌で感じた!!

## 第4回GMOフリーゾーン全国交流集会

2009年3月14・15日

## GMOフリーゾーン宣言

綾町は土壌診断や残留農薬の検査など有機農業をすすめるために必要な管理体制を充実させました。2001年には全国の市町村としては初の有機JAS登録認定機関の登録をしました。綾町の有機農場に関しては有機農業開発センターを中心に生産工程を管理しています。経済効率優先でなく、グリーンコープなど取り引き先との信頼をもとに顔の見える関係を大切にして、消費者と交流を続けながら野菜や果実作りをしています。今回九州で初めてGMOフリーゾーン宣言をしました。これからは誇りをもって野菜作りを続けていきます。



綾町 綾菜会 松井 道生さん  
フリーゾーン宣言生産者報告



くまもと理事長 久米田 薫さん

西オーストラリアのストップGMO市民交流集会にグリーンコープから代表参加した。これを生かし、グリーンコープとしてGMOフリーゾーン宣言やGM食品を使っていない商品宣言にも取り組み、組合員の意識も盛りあがってきている。

### グリーンコープ共同体

### 生活クラブ連合会

### コープ自然派徳島



北海道理事長 船橋 奈穂美さん

各地、各生産者などがGMOフリーゾーン宣言をし、組合員カンパで看板を作っている。3年前「北海道の安心・安全条例」の中にGMに関する項目を入れることができた。交雑研究により距離やネットでは防げないことが分かっている。



理事長 環 滋子さん

日本製紙が農水省の委託で試験栽培をすすめていた遺伝子組み換え花粉症緩和米に関して、県に質問状を出した。情報公開を求めるなどして、食品としての研究断念に追い込んだものの、医薬品の開発として続行され、不安な状況は続いている。粘り強く活動したい。



かごしま理事長 川原 ひろみさん

グリーンコープでは、25年からGMナタネ調査を実施。かごしまでは200交雑を確認し、県などに交雑要望を提出した。200年にはGMOフリーゾーン全会の実行委員会に参加。Gフリーゾーン宣言運動にも積極的に取り組んでいる。

広報室 須佐 武美さん

有機農業運動をすすめるM作物反対運動は同等である。日本の農業を推進する産ナタネを増やす活動も広



交流栽培の田んぼに手作りのGMOフリーゾーンの看板を立てアピールしている。生産者や組合員、韓国の友好生協にもGMOフリーゾーン宣言を呼びかけている。



常務 大沼 さん



### 3人の高校生から

海釣りが好きなおじいちゃんの影響で海に惹かれるようになって水産高校を選んだ。33回もある延縄漁の実習に自分の体力が続くか、とても心配だった。嫌なこともあったがすべてを受け入れ無事に実習を終えることができた。専攻科に進学し海上保安庁に勤めたいと考えている。



銀山 明仁君



栗野 渉太君

小さい頃から海が大好きで海はあこがれだった。あつという間の2カ月間だった。船の中は狭いけど環境は整っていて生活は快適だった。陸に上がるのが嫌でいつまでも船に乗っていたかった。今でも昨日のこのように新鮮に甦る。来年は専攻科にすすみ、将来は船に乗る仕事に就きたい。



木口屋 大輔君

資格がたくさん取れるからと水産高校を選んだ。出港後、携帯電話が使えないことがとても不便だったが、それも慣れた。実習中は食事担当で皿洗いなども経験した。帰りに甲板作業でペンキ塗りもして楽しかった。太ったねって言われた。大学に進学し、いずれは船に乗る仕事に就きたい。

#### 栗野君と木口屋君のお母さんの話

航海の途中、すべての子どもが家族とメッセージのやり取りができたことがとてもよかったですね。「長い航海の中では何度も気持ちが萎えてしまいそうになる。一杯一杯で頑張っている生徒らの心を支えるのは家族の声です」と事前に先生から話があり、家族中でメッセージを書いてFAXしました。ひと回りもふた回りも大きくなって戻ってきました。



帰港式で在校生や地元の漁業関係者、保護者らの歓迎を受けた (3/19)



約60kgもあるマグロを前に大満足の高校生ら

「ハワイの有名な観光スポット」などのテーマで現地の人へのインタビューを試みた。英会話の勉強にもなり現地の人たちの交流を深めることが目的だ。英語でのコミュニケーションは中々難しかったようだが、「カタコトの英語でも通じるとうれしかった」と話す。3人とも「将来は船に乗る仕事がしたい」という希望を抱く。2カ月という航海によって高校生らが大きく成長しているのは誰の目にも明らかだ。



鹿児島水産高校実習船薩摩青雲丸

# 高校生が獲ったマグロが今年も届いた!!

## 「グリーンコープは日本の漁業を応援します」

農業と並ぶ第一次産業の一つ漁業の衰退の危機が叫ばれています。グリーンコープは日本の漁業を応援したいと考え、さまざまな試みを行っています。その一つとして、昨年初めて鹿児島水産高校のマグロ延縄漁業実習船「薩摩青雲丸」で漁獲されたマグロを共同購入の商品として企画しました。今年もまた「高校生が獲ったマグロ」の企画が実現できるようになりました。

2008年度第3次航海に参加した高校生は14人(海洋科機関コース13人・海洋技術コース1人)。その中の3人を取材し、海に挑んだ70日間を追いました。

**薩摩青雲丸**は、昨年から枕崎漁港に水揚げされるようになった。これは実習に臨む水産高校はもろろん地元漁業関係者の熱い思いによって実現したものだ。今年もその時期がやってきた。今年(67トン)に比べるとかなり少ない。それでも全国の水産高校の実習船の中では一番多かったという。

今回の薩摩青雲丸の航海中はラニーニャ現象の影響からか、貿易風が強くて時化続き。甲板の上では立っているのがやっと、中には打ち上げる波で甲板の端から端まで流されてしまった生徒もいたという。「生徒たちはよく頑張ってくれました。その中で獲った貴重なマグロです」と担任の立石先生は顔をほころばせる。漁業はまさに自然そして海

との闘いだと言える。期待と不安を抱いて出港! 過酷な漁の仕事はこなす。薩摩青雲丸は今年1月9日、漁場であるハワイ沖をめざして枕崎港を出港した。それから帰港する3月19日までの約2カ月間、高校生14人が陸を離れて海の上での生活を体験した。途中硫黄島で第二次世界大戦で亡くなった人たちの慰霊を行い、約10日で漁場に到着。それからほぼ毎日、33回のマグロ延縄漁の実習に臨んだ。

朝4時半起床、5時から投縄作業に取りかかる。130kmもあるロープの枝縄には2200本の釣り針が付いており、それに餌となるムロアジを取り付ける。その仕事は危険が伴うので船員が行い、生徒たちは浮きを落とす作業を担う。そうやってロープを4時間かけて海に仕掛けていく。毎日の仕掛けにどれだけのマグロが掛かるか、保証は何もない。1回の網に2〜3匹しか掛からない日もあれば、5トン入る日もある。漁業とは賭けのようなものなのだ。仕掛けが終わると海水温度や塩分濃度の計測、気象観測など海洋観測を行う。時間はあつという間に過ぎていく。

夕食を終えると午後1時から揚縄作業に入る。ロープを巻いたり、揚がったマグロの内臓処理など、作業は夜中の1時頃まで続く。睡眠時間は少なく自由時間もほとんどないという過密スケジュールをこなす。その中でも高校生としての勉強は欠かさなかった。獲ったマグロを食べてくれる人の顔が見えるのがうれしい。海には多くのマグロが回遊しているが、薩摩青雲丸に漁獲された瞬間に「高校生が獲ったマグロ」という物語を持った固有名称のマグロになって、グリーンコープにも届く。

獲ったマグロを食べてくれる人の顔が見えるのがうれしい。海には多くのマグロが回遊しているが、薩摩青雲丸に漁獲された瞬間に「高校生が獲ったマグロ」という物語を持った固有名称のマグロになって、グリーンコープにも届く。



高校生らが獲ったマグロは急速冷凍され、新鮮なまま解体される



冷凍されたマグロの切り口。死後硬直をおこしているのは、生きていた証





視察訪問・交流で訪ねた 三池さんの牛舎

# 酪農の希望につながる生産奨励金



佐藤恵美子さんグリーンコープ生協(長崎)から矢野桂吾さんに目録を渡した

2009年3月6日、第3回酪農生産者交流会が開催され、2008年度3回目の生産奨励金が酪農生産者に手渡されました。その後、昼食交流、酪農産地への視察訪問・交流が行われました。酪農生産者12人、JA菊池から2人、熊本県酪連から1人、グリーンコープからは組合員をはじめ21人が参加しました。

## 交流を重ね 信頼を深め



「11月に取り組んだ『グリーンコープ40万人組合員食べものアンケート』では、びん牛乳は安心・安全、しかもとてもおいしいと組合員からの評価が高いことが分かった。改めてグリーンコープを表現する代表的な商品であることを確認した」とグリーンコープを代表してグリーンコープ生協くまもと副理事長山本睦子さんが冒頭の挨拶の中で話しました。

non-GMO牛乳生産者会委員長矢野桂吾さんからは「生産奨励金はほんとうにありがたい。グリーンコープ生協の遺伝子組み換え学習会で、天笠さんの話を聞いた。改めて問題の重大さとnon-GMO牛乳の貴重さを感じた」と感謝の思いが述べられました。

続いて佐藤恵美子さん(グリーンコープ生協(長崎))から第3回目の生産奨励金2484万円(10月~12月分)の目録が、矢野さんに、「生乳生産者のみなさんへのメッセージ」が中川幸江さん(グリーンコープやまぐち生協)から大津地区の生産者三池明美さんに手渡されました。

グリーンコープ連合の担当者、「今期の価格改定で値上げになったが、利用にそれほど大きな影響は出ていない。しかし、厳しい経済状況下では、牛乳の消費量は減少傾向にある。組合員と生産者の交流をできるだけ増やすなど地道な取り組みを行い、利用普及を

## 単協報告



予約の取り組みやレシピ作成などをして牛乳についての意識が高まった。10周年記念のお祭りでは500人が試飲し、大好評だった (永野清美さん グリーンコープ生協みやざき)



牛乳は苦手だったが、びん牛乳を飲んでからおいしさを知った。おおいだでもびん牛乳の利用普及に力を入れている (宇都宮陽子さんと娘のかえでちゃん グリーンコープ生協おおいだ)



分かりやすい手作りのタペストリーで牛乳の情宣をしている。酪農ホームステイに参加して「酪農家になりたい」という子どもたちのメッセージが届けられた (野田さおりさん グリーンコープ生協さが)



利用拡大の情宣や、店舗での試飲などに取り組んでいる。委員の中には子どもの頃(21年前)、酪農ホームステイに参加したという人も (川上由美子さん グリーンコープかこしま生協)

堅実にすすめる必要がある」と報告しました。次いで4つの単協から、創意と工夫を凝らした、びん牛乳の利用拡大の取り組みが報告されました。

昼食交流時には、参加した生産者と組合員が和やかに歓談し、親交を深めました。「今回の交流会に参加し、生産者が牛を大切に育て、よりよい生乳を生産するために努力しているようすがよく分かった」と松本裕子さん(グリーンコープ生協ふくおか)が述べました。

## グリーンコープの酪農生産者になって、未来に希望が

午後からは、グリーンコープの参加者は5つのグループに分かれて、酪農家の牛舎を訪ね、生産者との交流をしました。菊池市旭志で、酪農を営んでいる生産者の三池政文さんに話を聞きました。三池さんは約150頭の

乳牛の飼育をしています。2004年から、現在のところ牛舎を新設し規模を拡大しました。その2年後、全国的な生産調整で半分以上の生乳を廃棄せざるを得ないなど厳しい状況が続きました。2007年からグリーンコープの生産者になりました。全量出せるようになりました。「グリーンコープの組合員さんの牛乳への思いは、他とぜんぜん違う。また、職員さんの熱意や向かい方も違う。やっとな酪農に希望が持てました」と三池さん。妻の千秋さんは「二男が自分から酪農を継ぐと言いはじめたんですよ」と嬉しそうに話します。

組合員と生産者相互の交流や生産奨励金など、グリーンコープの取り組みは生産者の励みになっています。同時に組合員にとっては、安心して安全なびん牛乳を安定して利用できるということに繋がっています。



No.10

## 放射能定期検査をなぜ

グリーンコープは、原発は「いのち・自然・くらし」を脅かすものとして脱原発に取り組んでいます。みどりの地球をみどりのままに、いのちを育む環境を子どもたちにつなぎ、安心して暮らせる社会を作りたいと考えています。1986年に起きたチェルノブイリの原発事故をきっかけに、放射能汚染の問題は大きく取り上げられました。事故を受けて、国内でも放射能汚染された食品が大量に出回りましたが、放射能の測定数値も公開されていませんでした。そこでグリーンコープでは、食べものの安全性という観点から市民の立場で食品中の放射能汚染状況を把握するため、グリーンコープ商品の自主検査を開始しました。チェルノブイリの事故への記憶は薄らいできていますが、その間に原発は増設され、あるいは老朽化して、地震国日本での事故への懸念は増大しています。

グリーンコープは、安心・安全な商品を持つて組合員に届けるために、継続して放射能定期検査を実施し、その結果を「共生の時代」で公開しています。

グリーンコープ共同体組織委員会

## 報告

### チェルノブイリ支援募金にご協力ありがとうございました

- 参加した組合員数 761人
- 募金総額 2,572,000円

募金は「NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク」とおして、被災者支援のために役立てられます。主には日本の医療専門家を含めた検診団の派遣費用や医療機器などの購入に使われます。被災者の苦しみは今なお続いており、まだまだ支援が必要です。グリーンコープはこれからも支援していきます。

投稿募集

私の好きなグリーンコープ商品  
●400字程度 ●毎月月末住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX・Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。住所氏名などの組合員の個人情報、本紙に掲載の場合のみ使用します。〒812-8561 福岡市博多区博多駅前中央街8-36 グリーンコープコミュニケーションセンター(REN)「共生の時代」編集部宛 FAX 092-4481-7876 Eメールアドレス: t\_kohno@greencoop.or.jp

## 言いたい

投稿欄

### 「うすあげ」で腕を上げた郷土料理

数ある好きな商品の中の一つは「うすあげ」。私の住む米子の郷土料理「いただき(油揚げに米・具を詰めて甘辛に炊いたもの)」に欠かせません。この地に嫁いできた当初、主人の好物が「いただき」と知り、早く作れるようになって一人前の嫁に見られたと思えました。意地っぱりな私は姑に教えを請わず、自己流に作り驚かせようとしま

加藤 裕子

## 投稿募集

私の好きなグリーンコープ商品

●400字程度 ●毎月月末住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX・Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。住所氏名などの組合員の個人情報、本紙に掲載の場合のみ使用します。〒812-8561 福岡市博多区博多駅前中央街8-36 グリーンコープコミュニケーションセンター(REN)「共生の時代」編集部宛 FAX 092-4481-7876 Eメールアドレス: t\_kohno@greencoop.or.jp



いま地域を考える

No.189

お年寄りや体の不自由な人  
みんながほっとできる驛



左からスタッフの藤井さん、代表の深澤さん、スタッフの三牧さん

商店街の一角にある「えんがわ」の入り口。看板の下のトールペイントは趣味の教室の先生の作品

店内には手作りの品がたくさん並んでいる



趣味の教室の一つ「周南百選」(歴史探訪)で訪れた若山城跡にて

核家族、夫婦共働きが増え、高齢者が孤立する現代。家にも一人ぼっち、話し相手もない、ちょっとした仕事に人の手を借りたい、そんな高齢者、障がい者がほっとできる場所を提供しサポートしているのが、山口県周南市にある「憩いの驛・えんがわ」(以下、「えんがわ」)だ。

会の運営をはじめさまざまなイベントを企画するなど、84歳の今もエネルギーに活動する代表の深澤幸代さん(グリーンコープやまぐち生協組合員)に話を聞いた。

憩いの驛・えんがわ

JR徳山駅前古くからある商店街の一角に、「えんがわ」はある。店舗とふれあいサロンが一体となった店先には、かわいらしい花苗や手作りの小物など、手に取ってみたいくなるようなぬくもりのある品ばかりが所狭しと並んでいる。年配の女性客が入れ替わり立ち替わり訪れる。「こんにちは。今日は孫の買いに来たんよ。」「おばあちゃんの具合どう?」と気軽な挨拶が飛び交う、まさに「憩いの驛」だ。

「えんがわ」は高齢者や障がい者を対象としたふれあいサロン。緑側でお茶を飲みながらひなたぼっこをしているような、ほっとできる場所と

いう意味でこの名がついた。年会費1000円、会員は現在180人。高齢者の手作り品や障がい者作業所の商品などを安く仕入れて低価格で販売している。「えんがわ」の活動は多彩だ。店舗は火曜から土曜まで毎日オープンしている。2階では生け花やパソコン、英会話など10の教室が交代で開催されている。毎週月曜日にはがんやパーキンソン病などの病気や介護などの悩みの相談を受け「心のケアルーム」を、今年3月までは若者に多い「ひきこもり相談」を月2回行っていた(現在は社会福祉協議会の取り組みとなっている)。週に1度は隣の店を借りフリーマーケットも開催している。また年間をとおして、歴史

探訪やグループホームなどの施設見学、認知症や介護保険などについての勉強会を企画。花見や紅葉狩りなどのイベントも盛りだくさんだ。会の通貨「えんがわ切符」を発行し会員同士で助けあう仕組みを作っている。それを活用して買い物や庭の手入れなどちょっとした仕事を頼むことができる。頼みにくい、迷惑をかけたくないという気持ちも、お金を支払うことで軽くなる。一口500円、そのうち「えんがわ」に入る手数料は50円、運営費の一部に充てている。

深澤さんは夫が亡くなった10年前、同じように寂しい人たちで集まって楽しく過ごせるようにと、夫が経営していた店舗を提供して「えんがわ」の活動をはじめた。しかし、初めはどう運営すればいいかわからず費用がかさんで大変だった。集まってくる人たち、のさまざまな助言を取り入れ、だんだんと今のスタイルに落ち着いてきたという。

2009年3月の組合員数 397551人 (3/26現在) リユース リサイクル データ 2009年2月分

牛乳びん	リユースびん	トレー	モールドパック
回収本数 867,978本 回収率 97.3%	回収本数 201,467本 回収率 61.3%	回収重量 15,008kg 回収率 61.7%	回収重量 34,030kg 回収率 101.0%

放射能汚染測定結果報告(186) 2009年2月

検体名	産地	セシウム134	セシウム137	合計ベクレル/kg
※ アーモンドチョコボール	アメリカ(アーモンド)	ND	ND	ND
※ 大豆	九州	ND	ND	ND
※ 小豆	北海道	ND	ND	ND
※ マスコパド糖	フィリピン	ND	ND	ND
※ 亀美さび砂糖	鹿児島県	ND	ND	ND
※ ウスターソース		ND	ND	ND

現在では会員も増え、高齢者や障がい者の作品を売る店舗・集うサロンとして毎日開けていることが高く評価され、山口県の「生きがい活動支援モデル事業」に指定されている。今年で10周年。深澤さんたちは10年史を作ろうと張り切っている。「後の人たちのために役に立つ情報として、やってきたことを残そうと思って会員から募集しています」「そのやっつけているんな仕事を考えて楽しみを作っているの。」「平凡で、好きな仕事をするのが一番幸せ」。深澤さんには、人のためにしてあげているという気負いが無い。

「えんがわ」は深澤さんとボランティアのスタッフ14人が1日2〜3人ずつ交替で運営している。8年来のスタッフの三牧さんは「私はここにいるんな

助も受けていない。「儲けようなんて気がないからやっていけるよ。商品を提供してくださる方も、教室の先生方も、みなさん奉仕の精神で協力してくださっているの」と深澤さんは言う。

最初は必死、それでも着実に歩いてきた10年

「えんがわ」は深澤さんとボランティアのスタッフ14人が1日2〜3人ずつ交替で運営している。8年来のスタッフの三牧さんは「私はここにいるんな

ことを話してストレス解消しや障がい者の作品を売る店舗・集うサロンとして毎日開けていることが高く評価され、山口県の「生きがい活動支援モデル事業」に指定されている。今年で10周年。深澤さんたちは10年史を作ろうと張り切っている。「後の人たちのために役に立つ情報として、やってきたことを残そうと思って会員から募集しています」「そのやっつけているんな仕事を考えて楽しみを作っているの。」「平凡で、好きな仕事をするのが一番幸せ」。深澤さんには、人のためにしてあげているという気負いが無い。

毎週月曜日の「心のケアルーム」のうち月2回は深澤さんが担当する、独り暮らしや介護の悩みなどの相談日となっている。寝たきりの夫を介護した経験がある深澤さんは、自分の体験談を話すこともありますが、ほとんどは聞き役。「悩みを聞いてあげるだけでも、

涙をこぼして「ありがとう」と言われることがあります。体験者が聞くとその気持ちがよく分かるから、心から相談に乗ってあげられる。自分が体験したことは生かさなげや「ここに来る人が喜んで満足して帰ることがうれしい。それは心で付きあっているから。ボランティアが一番大事なのは「心」よ。」

これからの社会はますます核家族化に拍車がかかり、独居老人が増えていくことが予想される。だからこそ「えんがわ」のような毎日開かれるサロンが求められているのだと深澤さんは言う。「いつでも行ける、楽しいことがある、そして相談できる場所がお年寄りや障がい者には必要です」。深澤さんたちの活動はこれからもますますパワフルに進化し続けるだろう。

※「憩いの驛・えんがわ」は、2008年度グリーンコープやまぐち生協の上半期の福祉活動組合員基金の助成を受けている